

平成26年11月18日

日立理科クラブ通信

No. 20



日立理科クラブ

理数アカデミー 「私の夢・過去・未来」発表会

11月13日(木、県民の日)に開催された理数アカデミーの発表会を紹介します。この発表会は、今年で4回目になります。理数アカデミーの受講生と講師が4分間の持ち時間でポスターセッションを行います。発表者の受講生12名は2、3年生(理科クラス・数学クラス)で、今現在の自分の夢や将来の職業などを発表していました。(当日、部活動等の関係でポスター発表のみの受講生もいました。)

理数アカデミーを受講しているの、科学的な



講師の発表



受講生の発表

分野の職業を目指している生徒が多かったのですが、警察官・犯罪心理学者・民族学者・建築士など、発表を聞いているとそれぞれの夢ややりたいものの背景が分かり、とてもすばらしい時間を共有できたと思います。4分という持ち時間は生徒たちにとっては長く、用意した内容がすぐに終わってしまい、その後はアドリブで自分の思いを述べている生徒もいて驚きました。自分の思いを多くの人たちの前で瞬時に表すという事はとても難しいことですが、自分の言葉で自分の思いを堂々と述べていることに感心しました。講師発表では、10名の講師陣が、思い思いのポスターを展示し、子どもの頃の様子や就職のこと、興味関心を持って取り組んだこと、自分として積み重ねてきた業績などを述べていましたが、とても4分間では発表しきれな

く、進行係の「時間です。」という言葉に促されて、話を終える状況でした。受講生は、講師陣の職業観や受講生へのアドバイスにうなずきながら聞いている様子が見られ、何かヒントになるものを掴んでいったのではないかと思います。受講生へのメッセージで多かったのは、人との出会いを大切にすることや仲間を増やすこと、夢を持つことの大切さ、夢に向かって努力すること、いろんなことが勉強になることなどです。これらは、講師自らが歩んできた人生を振り返って感じた大切な重みのあるメッセージではなかったかと思えます。

また、講師の発表の中に「インタフェイスを考える」という内容がありました。インタフェイスとは、情報のやりとりを仲介する仕組みのことを言います。人が話をするときに、相手に話が通じるための大切なこととして、

- ① 使う言葉は、お互いに通じ合う言葉
- ② 話の内容は、お互いの共通の内容
- ③ 話のレベルは、お互いが理解し合えるレベル
- ④ 声の大きさは、お互いが聞き合える大きさ
- ⑤ 話す速さは、相手が聞き取れる速さ

を強調していました。今回の発表会の話し方そのものを、受講生に知ってほしいという事で、講師自ら、模範的に発表している姿がとても印象的でした。

今回発表しなかった1年生も含めて参加した受講生は、お互いがそれぞれに将来に対する考え方や夢を語り合うことで、他の友達の考え方を知ったり、講師の方たちの歩んできた道のりの中でのアドバイスにうなずいたり、間違いなく、これからのキャリアプランに参考になったことが多くあったと思います。私自身、今回初参加でしたが、この手法は、学校現場でのキャリア教育に生かせるのではないかと考えます。

なお、午後は「テーマ研究発表会」が同様なポスターセッションで開催され、テーマ研究受講生14人全員が5ヶ月の研究成果を7分で発表し、活発な討論が行われました。



受講生の発表

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一
日立理科クラブ事務所 Tel/FAX 0294-24-3104